

〔第150回簿記検定試験問題 解答・解説〕 ※今回より日商簿記ゼミ3級教本の参照ページとなります。

第1問 取引の仕訳を答える問題である。

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	土地	41,750,000	普通預金 未払金	500,000 41,250,000
2	損益	2,800,000	仕入	2,800,000
3	現金過不足 旅費交通費	10,000 7,000	受取手数料 雑益	15,000 2,000
4	建物 修繕費	16,000,000 4,000,000	普通預金	20,000,000
5	租税公課	8,000	現金	8,000

1. 固定資産を購入した時の仕訳を問う問題である。

日商簿記ゼミ 3級教本 p.95 ①

- ・土地を購入した時は土地勘定（資産）で処理する。
- ・購入手数料（土地が使用できるようになるまでにかかった付随費用）は、土地の購入代価に加算する。

(借) 土地 **41,750,000**
 ↑
 購入代価 付随費用
 (750 m² × @¥55,000) + ¥500,000

- ・購入手数料は普通預金口座から…支払う。 (貸) 普通預金 **500,000**

- ・土地代金は後日支払うから、未払金勘定（負債）の貸方に記入する。

(貸) 未払金 **41,250,000**

2. 帳簿の締切り（帳簿決算）に関する仕訳を問う問題である。

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.128

・仕入勘定において算定された売上原価とは？

決算整理仕訳に（仕入）××（繰越商品）××、（繰越商品）××（仕入）××という仕訳がある。

この仕訳は、仕入勘定で売上原価を計算するためにおこなう仕訳である。

したがって、問題の¥2,800,000 は、上記の仕訳をしたあとの仕入勘定の残高（売上原価）である。

・帳簿を締め切るための手順

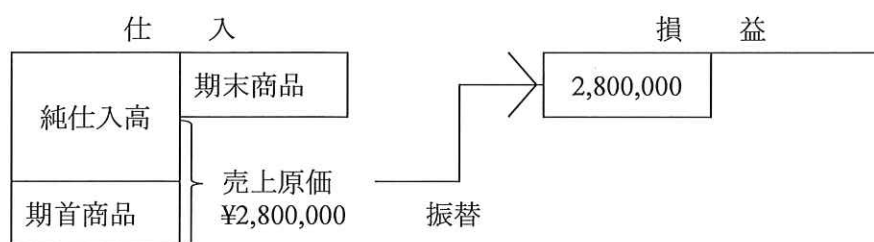
日商簿記ゼミ 3 級教本 p.167 ②

①収益を損益勘定に振り替える。

②費用を損益勘定に振り替える。

③以降省略

この問題は上記の②に関する仕訳である。



(借) 損 益 2,800,000 (貸) 仕 入 2,800,000

3. 決算日に現金過不足の原因が判明したときの仕訳を問う問題である。

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.155(1)

・現金の帳簿残高が実際有高より¥10,000 少なかったので現金過不足として処理していた。

↓このことから

実際有高 > 帳簿残高 つまり、現金過剰であったことがわかる。

↓現金過剰は現金過不足勘定の貸方に記入される

現金過不足

 | 10,000

・決算日において現金過不足勘定は精算する (借) 現金過不足 10,000

・受取手数料¥ 15,000 と旅費交通費¥7,000 の記入漏れが判明した。

(借) 旅費交通費 7,000 (貸) 受取手数料 15,000

・貸方が¥2,000 少ないことから、貸方に雑益 2,000 を計上する。

(貸) 雑 益 2,000

4. 固定資産に対する資本的支出と収益的支出に関する仕訳を問う問題である。 **日商簿記ゼミ 3 級教本 p.97**

※

	意 味	会計処理
資本的支出	固定資産の ①価値を高めたり、 ②耐用年数をのばす支出	(借) 固定資産××
収益的支出	現状を維持するための支出	(借) 修繕費××

(借) 建 物 16,000,000

修 繕 費 4,000,000

・ 普通預金口座より支払った。

(貸) 普通預金 20,000,000

5. 「収入印紙の購入」に関する仕訳を問う問題である。

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.114

・ 収入印紙を購入したときは租税公課勘定（費用）で処理する。通信費勘定（費用）と間違えないよう注意する。

(借) 租税公課 8,000 (貸) 現 金 8,000

第2問 売掛金勘定と売掛金元帳、および諸帳簿の記入に関する問題である。 日商簿記ゼミ 3 級教本 p.38(1)

【解答】

問 1

帳簿 日付	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳
7日	○		○		○	○	
12日			○	○			○
15日		○		○			

問 2	問 3
¥ 136,000	¥ 165,000

【解説】

取引の仕訳。なお、この問題には箱根商店に対する売掛金の残高を答える問題が含まれている。
 このような問題を解くときには、仕訳をしたときに売掛金の下に商店名をメモ書きするとよい。

7日 (借) 仕入 242,500	(貸) 買掛金 240,000 —岐阜— 現金 2,500
12日 (借) 売掛金 78,000 —東京—	(貸) 売上 78,000
15日 (借) 当座預金 50,000	(貸) 売掛金 50,000 —箱根—
19日 (借) 売掛金 63,000 —箱根—	(貸) 売上 63,000
22日 (借) 売上 5,000	(貸) 売掛金 5,000 —箱根—
29日 (借) 当座預金 49,000	(貸) 売掛金 49,000 —東京—

問 1 仕訳の勘定科目ごとにどの補助簿に記入するか考える。

- 7 日 (借) 仕 入 → 仕入帳、商品有高帳
- (貸) 買 掛 金 → 買掛金元帳
- (貸) 現 金 → 現金出納帳

- 12 日 (借) 売 掛 金 → 売掛金元帳
- (貸) 売 上 → 売上帳、商品有高帳

- 15 日 (借) 当座預金 → 当座預金出納帳
- (貸) 売 掛 金 → 売掛金元帳

問 2 上記仕訳から、売上勘定 (T 字形) に転記し残高を計算することで、純売上高をもとめる。

売		上	
22	5,000	12	78,000
		19	63,000
残高	136,000		

問 3 上記仕訳から、箱根商店勘定 (字形) に転記し、残高をもとめる。なお、[資料 1] より 6 月 1 日現在の箱根商店に対する売掛金残高は次のようにもとめる。

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.77

$$\begin{array}{lcl}
 \text{6/1 の売掛金残高} & \text{6/1 の東京商店に対する売掛金残高} & \text{6/1 の箱根商店に対する売掛金残高} \\
 \text{¥387,000} & = & \text{¥230,000} & + & \text{?}
 \end{array}$$

よって 箱根商店に対する売掛金残高は ¥157,000 (¥387,000 - ¥230,000) である。

箱根商店			
6/1	157,000	15	50,000
19	63,000	22	5,000
		} 残高 165,000	

第 3 問 残高試算表の月初残高と 10 月中の取引にもとづいて、10 月末の残高試算表を完成する問題である。

【解答】 注. ゴシックはあらかじめ答案用紙に書かれている金額である。

残 高 試 算 表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
10 月末残高	月初残高		月初残高	10 月末残高
650,000	437,000	現 金		
948,000	2,391,000	普 通 預 金		
1,462,000	1,296,000	売 掛 金		
		貸 倒 引 当 金	2,000	
450,000	450,000	繰 越 商 品		
210,000	220,000	前 払 金		
	20,000	仮 払 金		
2,220,000	1,800,000	備 品		
		備品減価償却累計額	570,000	570,000
		買 掛 金	1,003,000	873,000
		借 入 金	900,000	500,000
		未 払 金	660,000	590,000
		所 得 税 預 り 金	21,000	23,000
		資 本 金	3,242,000	3,242,000
		売 上	14,480,000	16,150,000
10,118,000	9,038,000	仕 入		
4,244,000	3,794,000	給 料		
354,000	337,000	旅 費 交 通 費		
72,000		(貸 倒 損 失)		
110,000	91,000	通 信 費		
170,000	156,000	水 道 光 熱 費		
900,000	810,000	支 払 家 賃		
40,000	38,000	支 払 利 息		
21,948,000	20,878,000		20,878,000	21,948,000

【解説】 解答の手順

1. すべての勘定記録を仕訳に置き換える。なお、重複取引については一方の取引を消しておく。

例えば、(1) a. と (3) a. は同一取引である。この場合、[現金に関する事項] では借方の現金を残し、貸方の売上を削除する。そして、[売上に関する事項] では貸方の売上を残し、借方の現金を削除する。

① a. と ③ a. の仕訳のいずれかを全部取り消してもよい。

(1) [現金に関する事項]

a. (借) 現金	300,000	=(貸) 売上	300,000
b. (借) 現金	200,000	=(貸) 普通預金	200,000
c. (借) 旅費交通費	17,000	(貸) 仮払金	20,000
現金	3,000		
d. (借) 仕入	110,000	(貸) 現金	110,000
e. (借) 前払金	180,000	(貸) 現金	180,000

(2) [普通預金に関する事項]

a. (借) 普通預金	1,130,000	(貸) 売掛金	1,130,000
b. (借) 現金	200,000	(貸) 普通預金	200,000
c. (借) 通信費	19,000	(貸) 普通預金	123,000
水道光熱費	14,000		
支払家賃	90,000		
d. (借) 買掛金	910,000	(貸) 普通預金	910,000
e. (借) 給料	450,000	(貸) 所得税預り金	23,000
		普通預金	427,000
f. (借) 借入金	400,000	(貸) 普通預金	402,000
支払利息	2,000		
g. (借) 所得税預り金	21,000	(貸) 普通預金	21,000
h. (借) 未払金	490,000	(貸) 普通預金	490,000

(3) [売上に関する事項]

a. (借) 現金	300,000	(貸) 売上	300,000
b. (借) 売掛金	1,380,000	(貸) 売上	1,380,000
c. (借) 売上	10,000	(貸) 売掛金	10,000

(4) [仕入に関する事項]

a. (借) 仕入	110,000	=(貸) 現金	110,000
b. (借) 仕入	780,000	(貸) 買掛金	780,000
c. (借) 仕入	190,000	(貸) 前払金	190,000

(5) [その他の事項]

a. (借) 貸倒引当金	2,000	(貸) 売掛金	74,000
貸倒損失	72,000		
b. (借) 備品	420,000	(貸) 未払金	420,000

2. 10月末残高の作成

- ・各勘定科目ごとに、月初残高に上記仕訳を加減し、10月末の残高を求めます。
- ・(例) 現金勘定

	月初残高	(1) a	(1) b	(1) c	(1) d	(1) e
10月末残高	¥437,000	+¥300,000	+¥200,000	+¥3,000	-¥110,000	-¥180,000
	= ¥650,000					

(例) 買掛金勘定

	月初残高	(4) b	(2) d
10月末残高	¥1,003,000	+¥780,000	-¥910,000 = ¥873,000

- ・最後に、残高試算表の合計が貸借とも¥21,948,000 で一致していることを確かめる。

第4問 取引を伝票に起票する問題である。。

【解答】

①	②	③	④	⑤
仕入	400,000	出金	売掛金	550,000

確認 一部振替取引（一部現金取引ともいう）については2つの起票法がある。

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.190 ②

- ① 現金取引と振替取引に分けて起票する方法
- ② いったん全額を掛け取引として起票し、そのあとで入金取引または出金取引があったとみなして起票する方法

(1) 取引を仕訳する

(借) 仕入 400,000 (貸) 現金 100,000
買掛金 300,000

この取引は一部振替取引である。

①の方法で起票すると次のようになる。

(借) 仕入 100,000 (貸) 現金 100,000 ... 出金伝票に起票
 (借) 仕入 300,000 (貸) 買掛金 300,000 ... 振替伝票に起票
 「代金のうち¥100,000 は現金で支払い」とあるから、() 伝票は出金伝票である。

出金伝票ならば科目欄は「仕入」となるが、問題では買掛金である。

したがって、①の方法での処理ではないことがわかる。

②の方法によれば起票は次のようになる。

(借) 仕入 400,000 (貸) 買掛金 400,000 ... 振替伝票に起票
 (借) 買掛金 100,000 (貸) 現金 100,000 ... 出金伝票に起票

出金伝票	
科目	金額
買掛金	(100,000)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(仕入)	(400,000)	(買掛金)	(400,000)

(2) 取引を仕訳する

(借) 売掛金 554,000 (貸) 売上 550,000
現金 4,000

この取引は一部振替取引である。

①の方法で起票すると次のようになる。

(借) 売掛金 550,000 (貸) 売上 550,000 … 振替伝票に起票

(借) 売掛金 4,000 (貸) 現金 4,000 … 出金伝票に起票

問題文に発送費については出金伝票で掛代金に含める記録を行うとあるので、上記①の方法で処理することになる。起票は次のようになる。

出金伝票	
科目	金額
(売掛金)	(4,000)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(売掛金)	(550,000)	(売上)	(550,000)

第5問 精算表を作成する問題である。

【解答】

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	280,000						280,000	
小口現金	35,000			7,500			27,500	
普通預金	320,000						320,000	
受取手形	420,000						420,000	
売掛金	300,000						300,000	
繰越商品	480,000		330,000	480,000			330,000	
建物	800,000						800,000	
備品	750,000						750,000	
土地	2,400,000			1,200,000			1,200,000	
買掛金		510,000	70,000					440,000
手形借入金		1,000,000						1,000,000
仮受金		1,300,000	1,300,000					
貸倒引当金		10,000		4,400				14,400
建物減価償却累計額		390,000		30,000				420,000
備品減価償却累計額		280,000		150,000				430,000
資本金		1,310,000						1,310,000
売上		6,500,000				6,500,000		
仕入	4,230,000		480,000	70,000	4,310,000			
				330,000				
給料	600,000		45,000		645,000			
旅費交通費	80,000		4,500		84,500			
支払家賃	180,000				180,000			
保険料	300,000			75,000	225,000			
消耗品費	80,000		3,000		83,000			
支払利息	45,000			37,500	7,500			
	11,300,000	11,300,000						
固定資産売却(益)				100,000		100,000		
貸倒引当金繰入			4,400		4,400			
減価償却費			180,000		180,000			
未収入金			75,000				75,000	
(未払)給料				45,000				45,000
(前払)利息			37,500					37,500
当期純(利益)					880,600			880,600
			2,529,400	2,529,400	6,600,000	6,600,000	4,540,000	4,540,000

【解説】

決算整理事項等

1. 取引の未記帳

(借) 買掛金 70,000 (貸) 仕入 70,000

2. //

(借) 消耗品費 3,000 (貸) 小口現金 7,500
 旅費交通費 4,500

3. 訂正仕訳

※ 訂正仕訳は次の手順で行う。

1. 間違って行われた仕訳を取り消すための仕訳

(借) 仮受金 1,300,000 (貸) 現金預金 1,300,000

2. 本来行われるべき仕訳

(借) 現金預金 1,300,000 (貸) 土地 1,200,000
 固定資産売却益 100,000

3. 上記 1 と 2 が解答になるが、ここでは仮受金の貸方科目が不明なため借方と貸方の現金預金を相殺した、以下の仕訳が答えになる。

(借) 仮受金 1,300,000 (貸) 土地 1,200,000
 固定資産売却益 100,000

4. 取引の未記帳

(借) 未収入金 75,000 (貸) 保険料 75,000

※返金される保険料

$$¥180,000 \times \frac{5 \text{ か月分 (12 月~4 月)}}{12 \text{ か月}} = ¥75,000$$

5. 貸倒引当金の設定

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.132

(借) 貸倒引当金繰入 4,400 (貸) 貸倒引当金 4,400

—費用—

—売掛金の評価勘定—

※ 貸倒引当金繰入額

$$\text{貸倒引当金繰入額} = \frac{\text{受取手形} + \text{売掛金}}{\text{貸倒引当金残高 (残高試算表)}} \times 2\% - ¥10,000 = ¥4,400$$

6. 売上原価の計算

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.128

(借) 仕入 480,000 (貸) 繰越商品 480,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)

(借) 繰越商品 330,000 (貸) 仕入 330,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

7. 固定資産の減価償却費を計上 (定額法・間接法)

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.137

(借) 減価償却費 180,000 (貸) 建物減価償却累計額 30,000

—費用—

備品減価償却累計額 150,000

※減価償却費の計算 [建物] 取得原価 ¥800,000 × 0.9 ÷ 24 年 (耐用年数) = ¥30,000

[備品] 取得原価 ¥750,000 ÷ 5 年 (耐用年数) = ¥150,000

8. 未払費用の計上

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.151

(借) 給料 45,000 (貸) 未払給料 45,000

—負債—

※ 給料の未払額を当期の費用として給料勘定に計上するとともに、未払給料という負債の勘定を設けてその貸方に記入する。

※ 未払給料勘定は負債である。

9. 前払利息の計上

日商簿記ゼミ 3 級教本 p.145

(借) 前払利息 37,500 (貸) 支払利息 37,500

—資産—

【当期】		【次期】	
11/1 (借入)	12/31 (決算)	10/31 (返済)	12/31 (決算)
利息 1 年分支払い			

支払利息 ¥45,000 (¥1,000,000 × 0.045)

当期分 (2 か月分)	前払分 (10 か月)
-------------	-------------

※当期に支払利息が¥45,000 記帳されているが、そのうちの 2 か月分が当期分であり、残りの 10 か月分が前払いになる。

そこで、前払分を当期の支払利息から差し引くとともに、次期に繰り延べるために前払利息という資産の勘定に振り替える。

$$\text{前払利息} \quad ¥45,000 \times \frac{10 \text{ か月 (前払分)}}{12 \text{ か月}} = ¥37,500$$

※ 前払利息勘定は資産である。

—精算表を作成する—

1. 勘定科目ごとに、残高試算表欄の金額と修正記入欄の金額を加減し、その結果を損益計算書欄または貸借対照表欄に記入する。そのさい以下のことに注意する。

(1) 金額を加減するとき、貸借同じ側にある金額は加算し、反対側にある金額は減算する。

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	480,000 ①		330,000 ②	480,000 ③			330,000 ④	

※ ①と同じ借方にある②は加算し、反対側にある③は減算する。

(2) 資産・負債・純資産の各勘定の金額は貸借対照表欄に移記し、収益・費用の各勘定の金額は損益計算書欄に移記する。

2. 精算表を作成するにあたって次の勘定科目が何の勘定か間違えないようにする。

貸倒引当金繰入・減価償却費 … 費用
 未払給料 … 負債
 前払利息 … 資産

※貸倒引当金勘定は売掛金の評価勘定であり、備品減価償却累計額は備品の評価勘定である。

精算表を作成するときはいずれも貸借対照表欄の貸方の側に記載する。

3. 損益計算書欄および貸借対照表欄の借方・貸方の金額をそれぞれ合計し、その差額を当期純損益の行のそれぞれ金額の少ない側に記入する。なお、

(1) P/L (損益計算書) の借方と B/S (貸借対照表) の貸方に差額を記入したときは、差額を記入したと同じ行の勘定科目欄に「当期純利益」と記入する。また、逆の場合は「陶器純損失」と記入する。」

(2) 各欄の借方・貸方の金額を合計し、合計金額を記入する。